

目的 農家生活においては健康は生活の中心課題の一つである。しかし従来は生産中心、健康犠牲型が多く、自らの力で健康獲得、更には予防医療への道は稍遠しの感があった。本研究は農家生活における健康と医療の問題について、農家生活と国民健康保険医療の相関、生活費中に占める医療費の実態を明らかにすることにより、今後の農家生活の健康と医療への考へ方の1助とすることとを目的とした。

方法 長野県北信K地域における昭和57年度国民健康保険加入者の医療受診の実態を調査し、健康実態、生活実態と併せて検討、考察を試みた。

結果 健康状況：当地域は果樹栽培地帯で専業農家約10%、非農家9%であとが兼業農家である。農業労働は傾斜地果樹栽培のため相当にきびしく、専業農家中半数以上が農夫症の土値以上を示している。また、労働と食生活からと思われる高血圧、貧血、胃病なども多くみられ健康状況は良好とはいえない。

医療状況：国保における医療は年間1人当たり平均受診日数16.6日、医療費(全額)63534円、1日/人当たり平均3827円の状況である。平均値については性別に有意差は認められないが、年令別に有意差があり、また高年令層に相関が高い。内容的には日数、医療費とも1般に乳幼児期、70才以上にピークがあるが、農業的因子に由来すると思われる疾病は30~59才の壮年期にも1つのピークを形成するものが多い。